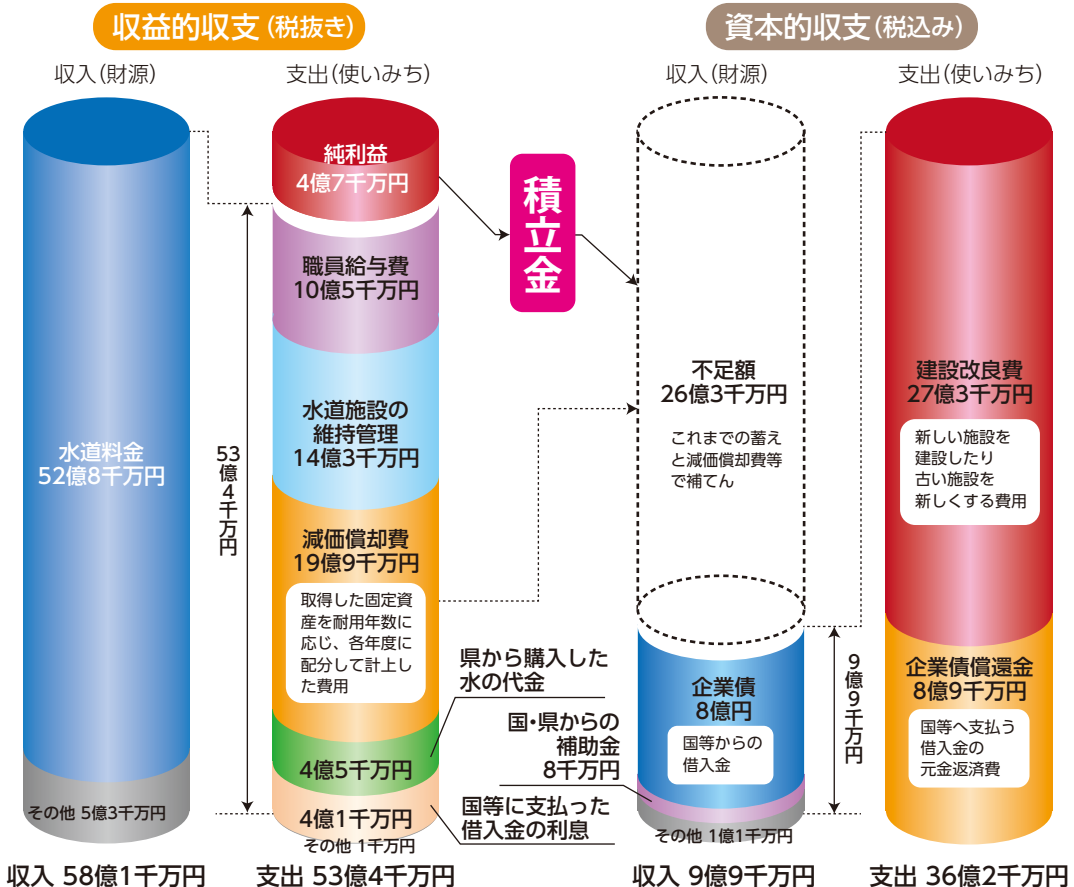


# 平成25年度会計決算状況をお知らせします

## 水道事業会計

水道事業は、市が経営する公共事業で、その会計は一般会計とは異なる企業会計で行い、事業に係る費用には、企業の経営に伴う収入が充てられます。安全な水道水をつくり、皆さまにお届けするまでの費用は、皆さまからいただく水道料金によって賄われます。

水需要は依然として減少傾向にあり、水道料金収入は前年度を下回りましたが、効率的な事業運営により健全財政の維持に努め、当年度純利益は4億7,425万8,926円となり、前年度に比べ9,790万2,759円の増となりました。



## 上下水道事業の概要

山形市上下水道部は、平成21年4月に水道事業と下水道事業を統合し、更なる経営の効率化とお客さまサービスの向上を図っています。平成25年には、今後10年間に上下水道事業が取り組むべき課題や目標を示す新たな「山形市上下水道事業基本計画」を策定し、計画に基づいて事業を進めています。

給水人口の減少や節水機器の普及に伴い、水道料金及び下水道使用料での収入が減少している状況にあり、更なる効率的・効果的な経営を行う必要があります。

業務の効率化と経費削減のひとつとして、平成21年の統合当時204人であった職員数をこれまでの5年間で21人削減しています。

今後もお客さまサービスを低下させることのないよう、引き続き健全な経営に努めて行きます。

### 収益的収支とは・・・

水道水を送り届けたり、汚れた水をきれいにするための経費とその財源。家計に例えると、生活費と給料にあたります。

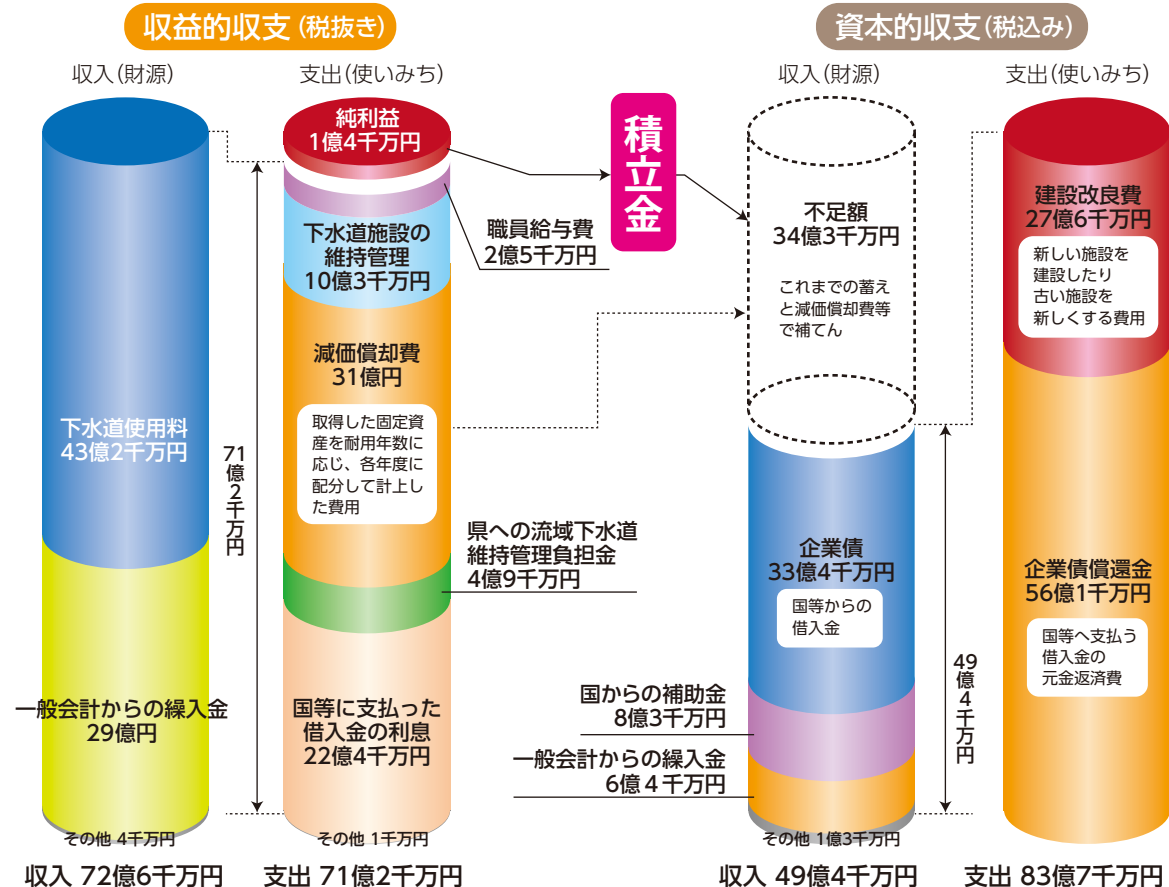
### 資本的収支とは・・・

施設の建設や改良に必要な費用とその財源。家計に例えると、家の新築・改築や自動車の購入にかかる経費とそのための借入にあたります。

## 公共下水道事業会計

公共下水道も公営企業で、汚水事業（生活排水を集めて浄化処理して川に流す事業）と雨水事業（雨水排水のための事業）を行っております。汚水事業にかかる費用は、皆さまからいただく下水道使用料が主な財源です。ただし、雨水事業やトイレ水洗化の指導などにかかる費用は、都市計画や公害防止の観点から一般会計が負担すべきものとされており、市税等の一部が充てられます。

下水道使用料収入も、水需要の減少にあわせ前年度より減少しており、当年度純利益は、前年度より308万4,402円少ない1億4,060万871円となりました。

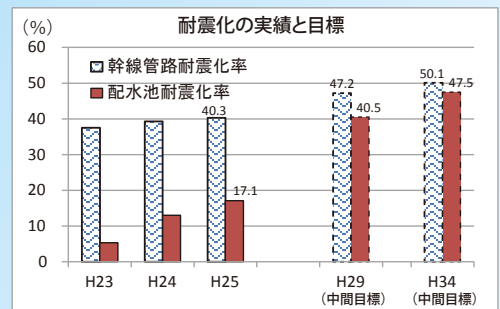


## 主な取り組み

### ①水道施設の耐震化

水道事業では現在、平成23年度策定の「水道施設耐震化基本計画」に基づき、施設の耐震化を進めています。

- 配水管整備では、約26kmの耐震化を実施(成安地区、下条町地区、小立地区等)
- 浄配水施設では鈴川配水場配水池耐震補強工事を実施



### ②水道メーター上流の漏水修繕工事

漏水発見から修繕完了まで迅速かつ確実に実施するため、前年度より、宅地内における水道メーター上流(水道メーターから配水管までの間)の漏水修理を、上下水道部がお客さまに代わって修繕しています。

平成25年度修繕実績 204件

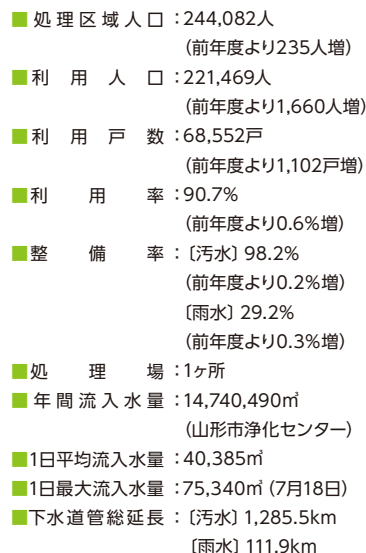
### ③その他

- (仮) 駅西配水制御所設備設置工事
- 最上川取水場取水ポンプ設備更新工事
- 岩波第一増圧ポンプ場設備更新工事
- 管理センター燃料備蓄庫設置工事

## 水道事業概要



## 公共下水道事業概要



## 主な取り組み

### ①管きょ整備

- 汚水管きょ整備は、364工区で約5.8kmを実施(大字黒沢、大字釈迦堂等)整備面積は11ha増加し、整備率98.2%
- 雨水管きょ整備は、24工区で約2.5kmを実施(花橋一丁目、成沢西五丁目等)整備面積は15ha増加し、整備率29.2%
- 積雪時に、車道や歩道の安全対策を図る目的のマンホール断熱中蓋の設置は、平成25年度は2,112カ所設置。27年度までの3年間で約7,000カ所に設置する計画。

### ②その他

- 山形市浄化センター汚水ポンプ室耐震補強工事

## 下水道事業投資と企業債残高

### — 企業債残高は、平成20年をピークに減少 —

山形市が下水道の整備に着手して約50年が経過し、安全で快適な生活環境を確保するため、急ピッチで整備を進めてきました。その結果、これまでの建設事業費は約2,500億円に達しており、下水道使用料で賄いきれない財源は、国からの補助金や企業債で確保しています。

建設の際に借り入れた企業債残高は、処理施設の運転業務委託化や、借入金の抑制等の経費節減に取り組んできた結果、平成25年度は、1,020億円となっています。

